



グリーン電源みかわ太陽光発電所への納入例

太陽光架台向けに軽量形鋼の販売好調

明治鋼業(東京)

従来比4～5倍の水準で推移

形鋼の受注量が急増している。今年3月以降、従来比4～5倍の水準で推移しており、年度内いつぱいは現下の好調が続く見通しだ。

同社の軽量リップ溝形鋼、

各種表面

処理鋼板の

レベラー加

工やロール

フォーミン

グ加工を手

がける明治

鋼業(本社

・東京都千

代田区、井

上憲二社

長)は、太

陽光架台向

けにめつき

鋼板を母材

とした軽量

軽量溝形鋼、軽量山形鋼は、

あらゆる自然環境に対応で

きるよう「高耐食性溶融め

つき鋼板」を母材に使用。

これらを採用することで、

①後めつきからプレめつき

に変えることで板厚を下げ

ることが可能②長手方向の

切断部防錆処理装置により

オンラインによるタッチア

ップ塗装(初期錆防止)が

可能③既存の設計図をもと

に同社で軽量化した架台の

提案が可能——といった利

点がある。上記の軽量形鋼

3品種以外にもフォーミン

グ製品で培った実績から得

た対応力を發揮。顧客の設

計に合わせた形状や、指定

寸法の切断・孔あけにも柔

軟に対応している。

建築向けを中心としたフ

ォーミング製品の生産量

は通常、月間2000ト。

このほかに以前から太陽

光架台向けとして月間1

00～200トを受注し

ていたが、今年3月以

降、月間700～800

トと4～5倍に増えた。

同社が部材を供給する物

件は出力2～3MWが大半

を占め、必要に応じて設

計まで手がけることもある。

小野寺勝夫専務は受注量

急増の理由について「太陽

光発電システム設置架台市

場の拡大に伴い、昨年春ご

ろから見積もり依頼が殺到。

それらが決まり出した結

果」と説明。部材を供給す

るにあたって付随する切断

・孔あけ、切断後の端面塗

装などの一次加工は、「一

部に外注を使っているが、

こなし切れないほど」とい

う。先々の引き合いも多く、

すでに11月まで受注残を抱

えており、「少なくとも今

年度いつぱいから来年度の

夏場まで今の勢いが続くも

のと思われる」とする。

同社はめつき鋼板専門の

フォーミング加工のリーデ

ィングカンパニーとして、

1977年に軽量形鋼の製

造を開始した。現在、栃木

工場(栃木県佐野市)では

軽量リップ溝形鋼、軽量溝

形鋼、軽量山形鋼の3製品

を主軸に、数多くの品種・

サイズを取り扱っている。

軽量形鋼では品質保証体制

の強化を図り、2010年

8月に「JIS G335

0」の認定を取得した。